

ロシアの北極をめぐる対 NATO 戦略の変遷

— ノルウェーの介在に着目して —

高橋 慶多

本稿は、執筆者が海上自衛隊幹部学校指揮幕僚課程の安全保障研究として執筆し、最優秀論文として英国海軍から第 1 海軍卿賞を受賞したものである。

第 1 海軍卿賞は、平成 25 年 12 月に本校を訪問した英国第 1 海軍卿兼海軍参謀長のジョージ・ザンベラス海軍大将からの「海上自衛隊と英海軍の友好の証として、海上自衛隊幹部学校において執筆された優秀な論文に対して賞を授与したい」との提案により設立され、今回で 7 回目の受賞となる。(編集委員会)

はじめに

かつて氷によって閉ざされていた北極¹は、気候変動に伴う融氷によって利益関係国の戦略的関心を惹起させ、今や地政学的な緊張を高めている²。特に一般的な議論では東欧を中心として捉えられる、ロシアと北大西洋条約機構 (North Atlantic Treaty Organization : NATO) 間における紛争の火種もまた北極で燻っており、同地域を舞台とした冷戦再発の恐れすら語られている³。

北極において最も長い沿岸線とこれに付随する広大な海洋領域を有するロシアは、2007 年 8 月の北極点海底への国旗設置から、北極における利益獲得の堅固な意思を明らかにした⁴。一方で北極国家間の協力と調和を目的

¹ 本稿における「北極」は、北緯 66 度 33 分以上の地域という定義に基づく。

² Mikhail Zakharov, "NATO vs. Russia in the Arctic: How to prepare for the coming crisis," January 2, 2021, atlantic-forum.com/content/nato-vs-russia-arctic-how-to-prepare-coming-crisis (Accessed on June 2, 2020).

³ カトリーン・スティーブン「にらみ合いの行方」『日経サイエンス』2019 年 11 月、50 頁。

⁴ 兵頭慎治「ロシアの北極政策—ロシアが北極を戦略的に重視する理由—」『防衛研究所紀要』第 16 巻第 1 号、2013 年 11 月、13 頁。

とする北極評議会 (Arctic Council : AC) を通じて、協調的な北極のガバナンスに貢献すると表明し、積極的に活動を進めている⁵。

他方、北極沿岸国はジョージア紛争及びウクライナ危機以来、ロシアに対する警戒を強めており、特に陸、海上の両面で国境を接するノルウェーは顕著である。ノルウェーは 1949 年の NATO 加盟以来、その庇護の確保とロシア (ソ連) に必要以上の脅威を抱かせないという配慮を通じて、安全保障を追求してきた⁶。そして冷戦以来再び緊迫する北極で、ノルウェーはロシアの脅威に対して、NATO の安心供与を強く求めている⁷。しかしロシアとしても、図 1 に示すとおり、他の北極沿岸国の多くが NATO 加盟国であり、これらに囲まれているという戦略環境は脅威に他ならない⁸。そして北極加盟国の中でも、特にノルウェーが北極へ NATO を引き込んでいると非難している⁹。

北極の安全保障に関してはこれまで数多くの研究がなされている。石原敬浩は、北極において安全保障化と軍事化のいずれが進行しているのかに着目したが¹⁰、この観点において戦略国際研究所のコンリー (Heather Conley) など、ロシアが北極に軍事化をもたらしているとの見方が多数を占めている¹¹。その一方で、ロシアの視点からアプローチを試みたものは少ない。さらに視点を転じると NATO が加盟国間で足並みが揃わず、関与にも消極的であったものの¹²、今日に至っては北極で活発に行動していること

⁵ アレクサンダー・セルグーニン「北極法秩序形成へのロシアのアプローチ」幡谷咲子訳、稲垣治、柴田明徳編著『北極国際法秩序の展望』東信堂、2013 年、86-98 頁。AC はカナダ、デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、ロシア、スウェーデン及びアメリカの北極沿岸 8 か国を中心に運営されている。

⁶ 大島美徳「冷戦」初期の選択」大島美徳、岡本健志編著『ノルウェーを知るための 60 章』明石書店、2014 年、78-79 頁。

⁷ Frank B. Jensen, "Norway's defense minister: Change and stability in the High North," December 2, 2019, www.defensenews.com/outlook/2019/12/02/Norways-defense-minister-change-and-stability-in-the-high-north/ (Accessed on December 20, 2020).

⁸ カナダ、デンマーク、ノルウェー、アイスランド及びアメリカが加盟国であり、フィンランド及びスウェーデンは中立を主張している。Alexander Sergunin and Valery Konyshov, "Russia in the Arctic: Hard or Soft Power?" *Soviet and post soviet politics and society*, ibidem Press, 2015 を参照。

⁹ Peter B. Danilov, "Russia Warns Against Pulling NATO into the Arctic," January 17, 2020, www.highnorhtnews.com/en/russia-warns-against-pulling-nato-arctic (Accessed on April 29, 2020).

¹⁰ 石原敬浩「北極海と安全保障」『国際問題』第 627 号、2013 年 12 月、56 頁。

¹¹ ヘザー・A・コンリー「北極圏と大國間競争」『フォーリン・アフェアーズ・リポート』2019 年 11 月号、76-81 頁。

¹² 例えばカナダは、北極で NATO が役割を担うことがロシアを刺激し、地域を不安定化させると危惧し、その関与に否定的であった。Gerald E. Connolly, "NATO and

に関して、実はノルウェーの働きかけによるところが大きい¹³。しかしノルウェー国際問題研究所のリンダグレン (Wrenn Lindgren) らが指摘するように、北極を舞台とした大国間関係の中で、ノルウェーという地域小国が注目されることは稀である¹⁴。すなわち先行研究では、北極におけるロシアの対 NATO 脅威感が分析されておらず、またこれに影響を与えているノルウェーというアクターに関心が払われていないといえる。

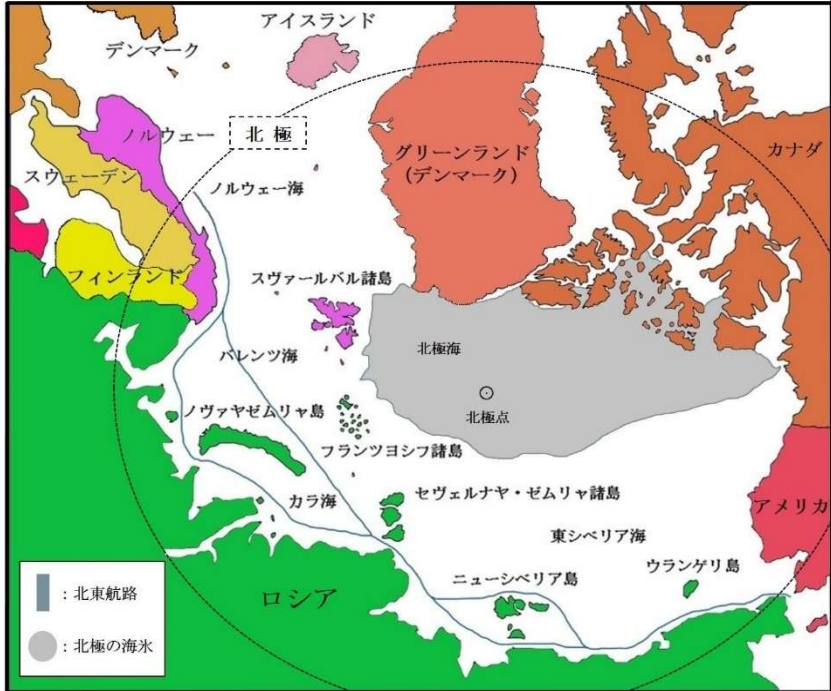
そこで本稿における問いを、北極をめぐるロシアの対 NATO 戦略がどのような変遷を辿り、またその要因は何であるのかに設定する。そしてこの問いに対し、北極におけるロシアと NATO 間関係にノルウェーという地域小国が影響を及ぼしているという仮説を立てる。論証方法としては、まずロシアの主要戦略文書を原文から比較し、北極に対する戦略の変遷を対 NATO という切り口から導出する。そして当要因をノルウェーが NATO をどのように動かし、そしてそれをロシアがどのように見ていたのかという観点から分析することで、北極における 3 者間関係を俯瞰するものとする。

security in the Arctic,” October 7, 2017, www.nato-pa-int/download-file?filename=sites/2017-11/2017%20-%20172%20PCTR%2017%20E%20rev.1%20fin%20-%20NATO%20AND%20SECURITY%20IN%20THE%20ARCTIC.pdf (Accessed on November 5, 2020).

¹³ Malte Humpert, “Norway’s Border with Russia Shapes Its Arctic Policy New Study Concludes,” August 14, 2018, www.highnorthnews.com/en/norways-boader-russia-shapes-its-arctic-policy-new-study-concludes (Accessed on June 2, 2020).

¹⁴ Wrenn Y. Lindgren and Nina Græger, “The Challenges and Dynamics of Alliance Policies: Norway, NATO and the High North,” *Global Allies: Comparing US Allies in the 21st Century*, July 2017.

図 1 ロシアから見た北極と他沿岸国



(出所) Google Earth を基に筆者作成¹⁵

1 北極に対するロシア戦略の変遷 ～対 NATO の観点から～

2008 年 9 月、ロシアは「2020 年までの北極におけるロシア連邦の国家政策の基本 (以下、「北極政策の基本」)」を策定し、北極に対する政策指針を初めて示した¹⁶。

本節では、この北極政策の基本から 2018 年までを対象期間とし、北極に対するロシア戦略の変遷を対 NATO という観点から導出する。手順としては、ロシア戦略文書上の文言等から変化点を抽出し、それぞれの戦略的事態を独自に定義する。なお事態の定義にあたっては表 1 に示す、ロシア

¹⁵ 海氷は 2020 年 9 月の観測値に基づいて描画した、jaxa.jp/press/2020/09/20200923-2_j.html (Accessed on June 2, 2020)。

¹⁶ Дмитрий А. Медведев, “Основы государственной политики Российской Федерации в Арктике на период до 2020 года и дальнейшую перспективу,” March 27, 2009, rg.ru/2009/03/30/arktika-osnovy-dok.html (Accessed on June 2, 2020)。

の戦略文書たる軍事ドクトリンで規定される「軍事的安全保障」、「軍事的危険」、「軍事的脅威」及び「軍事紛争」を指標として用いることとする。

表 1 指標として用いるロシア戦略用語の位置づけ

	用語	文書上の規定内容
	軍事紛争 (военный конфликт)	敵対する主体との問題を軍事力により解決する状態。
	軍事的脅威 (военная угроза)	敵対する主体間で軍事紛争が生起する可能性がある状態。
	軍事的危険 (военная опасность)	特定の条件下で軍事的脅威に発展する可能性がある状態。
	軍事的安全保障 (военная безопасность)	軍事的脅威が存在せず、国家の利益が保護されている状態。

(出所) 軍事ドクトリン¹⁷を基に筆者作成

(1) 競争期 (2008 年 9 月～2012 年 5 月)

競争期とは、北極沿岸国との資源争いが生起しているものの、軍事的安全保障下にあつて、ロシアが安定を認識していた事態と定義する。

2009 年 5 月、メドヴェージェフ (Dmitrii Medvedev) 大統領は「2020 年までのロシア連邦国家安全保障戦略 (以下、「2009 年安保戦略」)」を承認した。ここでは北極国境付近での資源を巡る他沿岸国との競争が軍事的問題に発展する可能性を指摘し、北極の国境管理を強化する旨が明記されている¹⁸。なお国境管理の強化に関しては、国防費から新たな予算は投入されておらず、既存兵力による国境警備態勢の強化を意図したものと理解される¹⁹。またラブロフ (Sergey Lavrov) 外相も北極を紛争地域とは見なしていないと述べており²⁰、2009 年時点では、ロシアは北極において資源争いに備えた、限定的な国境警備に主眼を置いていたと考えられる。

¹⁷ 各用語は 1 章 6 節で規定され、軍事的安全保障は a 項、軍事的危険は b 項、軍事的脅威は v 項、軍事紛争は r 項参照。なお当概念は改訂されることなく、現在まで継承されている。Дмитрий А.Медведев, “Военная доктрина Российской Федерации,” February 5, 2010, kremlin.ru/supplement/461. (Accessed on June 2, 2020).

¹⁸ Дмитрий А.Медведев, “Стратегия национальной безопасности Российской Федерации до 2020 года,” May 13, 2009, kremlin.ru/ supplement/424 (Accessed on June 2, 2020), 2 章 11、12 及び 42 節参照。

¹⁹ 岡田美保「ロシアの北極政策—日本への含意—」『国際安全保障』第 42 巻第 1 号、2014 年 6 月、40-42 頁。

²⁰ 北極評議会外相会合での発言であり、RIA Novosti, April 29, 2009. を参照。

その後 2010 年 2 月、ロシアは 10 年ぶりに軍事ドクトリンを改訂 (以下、「2010 年軍事ドクトリン」) し、「軍事的危険」として NATO 拡大によるロシア国境付近への軍事インフラの接近を、「軍事的脅威」には国家関係の急激な悪化などを挙げた²¹。この 2010 年軍事ドクトリンは北極に直接言及はしていないものの、改訂のわずか 2 か月後にロシア軍が北極点への降下訓練を敢行する²²など、2009 年時点からはロシアの北極における軍事力の意義が異なってきたように見受けられる。

この変化をもたらしたロシアの認識は、以降の戦略文書などに表れている。2010 年 12 月に策定された「2030 年までのロシア連邦の海洋活動の発展戦略 (以下、「海洋発展戦略」)」では、ロシアは海洋主権に対する侵害の存在を指摘した上で、長期的な海軍力の強化と作戦能力の向上を目指している²³。また 2011 年 7 月にセルジュコフ (Anatolii Serdyukov) 国防相は、ノルウェーなどの北極沿岸国が軍事力強化を進める現状に対抗するため、北極へ新旅団を駐留させると発表した²⁴。そして 2012 年 5 月、プーチン (Vladimir Putin) 大統領は「軍及び国防産業の近代化に関する大統領令 (以下、「軍の近代化に関する大統領令」)」により、北極におけるロシアの戦略的利益を擁護するため、海軍力を増強させるよう指示している²⁵。

2012 年 5 月まで、ロシアの北極戦略は国境管理を主眼としていたが、北極沿岸国との資源競争が激化したとの認識に至り、軍の近代化に関する大統領令をもって、軍事力強化の段階へ移行したのである。

(2) 対立期 (2012 年 5 月～2015 年 7 月)

対立期とは北極沿岸国との競争が NATO との対立に発展し、北極における緊張が軍事的危険にまで高まったと、ロシアが認識した事態と定義する。

²¹ Медведев, “Военная доктрина 2010.” 2 章 8 節及び 10 節参照。

²² Долюс приращения, “Кэзнно обрушилс на планы России сбросить в Арктике военно-воздушный десант,” July 4, 2010, inosmi.ru/amp/usa/20100407/159082190.html (Accessed on June 10, 2020).

²³ Владимир В. Путин, “Стратегия развития морской деятельности Российской Федерации до 2030 года,” December 8, 2010, rg.ru/2010/12/21/mordeyatelnost-site-dok.html. (Accessed on June 10, 2020), 1 章及び 2 章参照。

²⁴ Mia Bennett, “Russia, Like Other Arctic States, Solidifies Northern Military Presence,” *Foreign Policy Association*, July 4, 2011.

²⁵ Владимир В. Путин, “О реализации планов (программ) строительства и развития Вооруженных Сил Российской Федерации, других войск, воинских формирований и органов и модернизации оборонно-промышленного комплекса,” May 7, 2012, rg.ru/2012/05/09/vpk-dok.html (Accessed on June 2, 2020).

2012 年 9 月、北方艦隊が北極海の北東航路上に位置するカラ海において大規模な戦闘訓練を行う²⁶など、軍の近代化に関する大統領令以降、ロシアは北極での軍事的プレゼンスを強化している。

その後 2013 年 2 月、ロシアは「2020 年までのロシア連邦北極圏の発展と国家安全保障に関する戦略 (以下、「北極発展戦略」)」を策定し、北極における軍事的危険や軍事的脅威に対する十分な戦闘・動員確保などを課題として明記した²⁷。北極発展戦略に基づくロシアの見解は公式発言にも表れており、2013 年 12 月、プーチン大統領は北極のインフラと部隊整備を特に重視するように指示を下している²⁸。そしてこれを受けて、西部 (欧州)、南部 (コーカサス、中央アジア) 及び東部 (極東) に引き続く第 4 の戦略正面として、北極に北部統合司令部が設置された²⁹。

ロシアには旧ソ連地域などを自らの縄張りである「影響圏」ととらえ、その離脱や不安定化に対して過剰に反応する傾向が強く、昨今のクリミアやウクライナにおけるロシアの動向はまさにこの証左といえる³⁰。そして新たな戦略正面及びその司令部の設置から鑑みるに、ロシアは北極を重要かつ妥協の余地のない「洋上影響圏」と見なしていると考えられる³¹。

また 2014 年 12 月、ロシアは 2010 年軍事ドクトリンを改訂 (以下、「2014 年軍事ドクトリン」) し、軍の基本任務に北極における国益の確保を追加した。また NATO を引き続き軍事的危険に位置付けつつも、軍事的ポテンシャルの強化など、その動向に関する記載を新たに加えている³²。北極発展戦略とその後のロシアの動向から鑑みるに、この 2014 年軍事ドクトリンにお

²⁶ ドミトリー・リフトキン「北氷洋への熱い視線」RUSSIA BEYOND、2013 年 9 月 17 日、jp.rbth.com/science/2013/09/17/45145 (2020 年 6 月 14 日アクセス)。

²⁷ Владимир В.Путин, “Стратегия развития Арктической зоны Российской Федерации и обеспечения национальной безопасности на период до 2020 года,” February 20, 2013, egalacts.ru/doc/strategija-razvitija-arkticheskoi-zony-rossiiskoi-federatsii-i/ (Accessed on June 2, 2020), 3 章 18 節参照。

²⁸ Presidential Administration of Russia, “Expanded meeting of the Defense Ministry Board,” December 10, 2013, en.kremlin.ru/events/president/News/19816 (Accessed on June 10, 2020)。

²⁹ RIA Novosti, December 01, 2014.

³⁰ ロシアにとってバルト 3 国を除く旧ソ連地域は「地上影響圏」であり、特にウクライナは最重要の存在と位置付けている。兵頭慎治「ロシアの影響圏的発想と北極・極東地域」『ロシア極東・シベリア地域開発と日本の経済安全保障』日本国際問題研究所、2021 年 6 月、31 頁を参照。

³¹ 兵頭「ロシアの影響圏的発想と北極・極東地域」36-38 頁。

³² Владимир В.Путин, “Военная доктрина Российской Федерации,” December 30, 2014, rg.ru/2014/12/30/doktrina-dok.html (Accessed on June 10, 2020). 2 章 32 節及び 2 章 12 節 a 項参照。

ける、軍事的危険としての NATO の動向は、北極をも含んだ認識と考えられる³³。

さらに 2015 年 7 月には、ロシア連邦海洋ドクトリンが改訂(以下、「2015 年海洋ドクトリン」)され、北極における地域の方針として、戦略的な安定性確保のため、北方艦隊の強化などが掲げられた³⁴。なおロゴジン (Dmitry Rogozin) 副首相は、2015 年海洋ドクトリンは NATO の戦略的活発化に対抗するため、北極を重視して策定したものであると説明した³⁵。ロシアは、北極における NATO をさらに強く意識するようになったといえよう。

2015 年 7 月まで、ロシアは軍事的危険たる NATO との対立を展開した。そしてロシアは NATO が北極の戦略的安定を損なうと認識し、2015 年海洋ドクトリンで軍事的措置を含む方針を示すに至った。ロシアの対 NATO 北極戦略は、軍事的危険からさらに烈度を増した段階へ移行したのである。

(3) 対峙期 (2015 年 7 月～(2018 年))

対峙期とは、NATO との対立が軍事的脅威に相応するまで深化し、ロシアが軍事紛争へ発展する可能性を認識した事態と定義する。

ロシアは 2015 年 12 月に国家安全保障戦略を改訂(以下、「2015 年安保戦略」)し、NATO 加盟国による軍事的活動の活発化や国境への軍事的インフラの接近を国家安全保障上の脅威に挙げた³⁶。当記述は北極に対する NATO のプレゼンス強化を含むものと考えられ、2016 年 11 月に承認された「ロシア連邦の対外政策概念(以下、「対外政策概念」)」では、NATO と加盟国による封じ込めに危機感を示し、北極に軍事的対立を持ち込む動向

³³ 3 章 18 節 6 項で記される北極における脅威が、2014 年軍事ドクトリンで言及する NATO の動向と合致している。プーチン, “Стратегия развития Арктической” を参照。

³⁴ Владимир В.Путин, “Морская доктрина Российской Федерации,” July 26, 2015, docs. cntd.ru/document/555631869 (Accessed on June 8, 2020). 3 章 59-61 節参照。

³⁵ 一般財団法人ラヂオプレス『ロシア月報』第 885 号、2017 年 3 月、125 頁。

³⁶ Владимир В.Путин, “Стратегия национальной безопасности Российской Федерации,” December 31, 2015, kremlin.ru/acts/bank/40391 (Accessed on June 8, 2020), 2 章 15 節参照。

を非難している³⁷。そしてロシアは北極海に点在する自国領島嶼に軍事拠点
を構築する³⁸など、さらなる軍事的プレゼンスの強化を図っている。

2018 年時点でロシアは引き続き NATO を軍事的危険に位置づけている
が、戦略文書の規定上、もはやその動向は軍事的脅威に相応しており³⁹、メ
ドヴェージェフ首相も「ロシアに対する NATO 軍事力の指向は絶対的脅威
である」と発言した⁴⁰。ロシアの対 NATO 北極戦略は緊張を高めながら、
軍事紛争へ発展する危険性をはらんでいるのである。

表 2 ロシアの対 NATO 北極戦略の変遷過程

期 間	2008年9月～2012年5月	2012年5月～2015年7月	2015年7月～(2018年)
事 態	競 争	対 立	対 峙
指 標	軍事的安全保障	軍事的危険	軍事的脅威
主 な 戦 略 文 書	<ul style="list-style-type: none"> ■ 北極政策の基本 ■ 2009年安保戦略 ■ 2010年軍事ドクトリン ■ 海洋発展戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 軍の近代化に関する 大統領令 ■ 北極発展戦略 ■ 2014年軍事ドクトリン 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2015年海洋ドクトリン ■ 2015年安保戦略 ■ 対外政策概念

(出所) ロシアの戦略文書を基に筆者作成

2 ロシアの対 NATO 北極戦略の変遷に関する要因分析

(1) ノルウェーという影響因子の導出

北極をめぐるロシアの対 NATO 戦略は、競争、対立そして対峙へとエ
スカレーションを遂げている。この要因分析を行うにあたり、ロシアの対
NATO 認識を変化させた影響因子を導出する必要がある。この観点から、

³⁷ Владимир В.Путин, “Концепция внешней политики Российской Федерации,” January 12, 2016, www.mid.ru/foreign_policy/official_documents/-/asset_publisher/CptlCk6B6BZ29/content/id/2542248 (Accessed on June 8, 2020), 4 章 61 節及び 76 節参照。

³⁸ ノヴァヤゼムリヤ列島、フランツヨシフ諸島、セヴェルナヤ・ゼムリヤ諸島、ニューシベリア島及びウラングリ島に基地、飛行場、防空レーダー施設などの軍事施設が建設されている。Tatyana Rusakova, “Russian military strengthen their presence in the Arctic,” November 6, 2015, www.rbth.com/multimedia/infographics/201511/06/russian-military-strengthen-their-presence-in-the-arctic_537821 (Accessed on June 2, 2020)。

³⁹ 軍事的脅威として定義される、「軍事的及び政治的情勢の先鋭化」に該当すると考えられる。Путин, “Военная доктрина 2014”, 2 章 14 節 a 項を参照。

⁴⁰ 一般財団法人ラヂオプレス『ロシア月報』第 902 号、2018 年 8 月、55 頁。

ロシアでは北極加盟国の中でも特に、ノルウェーが NATO への大いなるロビー活動を展開しているとの見方が強い⁴¹。ロシアが「NATO を北極へ引き込むことで、既存の平和、安定、協力が損なわれている」などと、ノルウェーを度々名指しで批判している⁴²ことはまさにその表れといえる。実際にノルウェーは、国防費対 GDP 費の数値が NATO 加盟国中上位に位置するとともに、NATO の演習と任務への参加率も高い。また、加盟国政府の戦略文書に対するキーワード分析では、「ロシア」の頻出度がバルト 3 国に並ぶほど多い⁴³。ここからノルウェーは、北極加盟国の中でも特にロシアへの強い脅威認識を持つとともに、これに対する NATO の役割を重視しているといえる。そしてこれをロシアから見れば、ノルウェーが NATO の脅威を北極へもたらしていると映るのである。

そこで本節では、ノルウェーをロシアの対 NATO 認識を変化させた影響因子と位置付け、このノルウェーがもたらす NATO の動向に着目して、各エスカレーションにおける要因分析を行う。

(2) 競争～対立へのエスカレーション要因

ア ノルウェーが引き出す NATO の関与

ノルウェーの安全保障政策はロシアを強く意識している。2006 年に策定された High North 戦略では、軍事力による危機対応能力の向上を目指す一方で、隣国ロシアとの幅広い協力の推進を志向している⁴⁴。2010 年 4 月、スヴァールバル諸島とノヴァヤゼムリヤ島の国境画定により、長年未解決であった、バレンツ海と北極海の海上境界線に関する協定に至ったことはまさにその結実といえる。調印に際してストルテンベルグ(Jens Stoltenberg)首相は、ロシアとの協力から北極の安全を強化し、沿岸国としての役割と責任を積極的に果たしていくと述べている⁴⁵。

⁴¹ Конышев В.Н and Сергунин А.А, “Арктика в международной политике: сотрудничество или соперничество?” *М-РИСИ*, 2011, p.93.

⁴² Danilov, “Russia Warns Against Pulling NATO into the Arctic.”

⁴³ 2014 年から 2018 年における加盟国の各データが集計処理して示されている。ノルウェーは対象 22 か国の統計データ上、国防費対 GDP 費は 7 位、演習参加率は 10 位そして任務参加率は 2 位である。広瀬佳一、清水隆「NATO 加盟国の負担共有問題—ポスト・クリミア期における同盟の課題」『戦略研究』第 25 号、2019 年、116-119 頁を参照。

⁴⁴ Norwegian Ministry of Foreign Affairs, “The Norwegian Government’s High North Strategy,” December 1, 2006, www.regjeringen.no/globalassets/upload/ud/vedlegg/trategin.pdf (Accessed on September 22, 2020).

⁴⁵ Norwegian Ministry of Foreign Affairs, “The agreement on delimitation and cooperation in the Barents Sea and Arctic Ocean signed,” September 9, 2010,

一方、2007 年の対外政策指針ではロシアへの脅威認識を示すとともに、NATO が防衛政策の礎石であると明記している⁴⁶。これを援護するように、2009 年 1 月、スヘッフエル (Jaap de Hoop Scheffer) NATO 事務総長が冷戦後初めて北極への関与を示唆した⁴⁷が、この背景にノルウェーの強い働きかけがあったことが、他ならぬスヘッフエルによって語られている⁴⁸。

また NATO はジョージア紛争後、加盟国から安心供与を迫られ、2010 年 11 月に新たな戦略概念 (以下、「2010 年戦略概念」) を採択し、集団防衛、危機管理及び協調的安全保障を中核的任務として掲げた⁴⁹。冷戦後 NATO が集団防衛を強調したのは初めてのことであり⁵⁰、この本来任務への回帰に関しても、NATO に対して北極におけるロシアの脅威を政治問題化するという、ノルウェーの努力が一つの契機となっている⁵¹。

さらにノルウェーは 2006 年以来、軍事演習“Cold Response: CR”を主催し、NATO 加盟国等とのパートナーシップ形成に努めている⁵²。NATO は 2014 年まで、北極に対して主体的かつ具体的な行動を起こしていない。しかしノルウェーによる CR を通じた加盟国の協同は、北極に NATO の存在感を顕示することにつながっており⁵³、結果としてノルウェーは NATO の関与を引き出すことに成功していたといえよう。

regjeringen.no/no/documentarkiv/stoltenberg-il/smk/Nyheter-og-pressemeldinger/2010/avtalen/id614254 (Accessed on September 21, 2020).

⁴⁶ Office of the Norwegian Prime Minister, “The Soria Moria declaration on international policy,” February 2, 2007.

⁴⁷ NATO HQ, “Speech by NATO Secretary General Jaap de Hoop Scheffer on security prospects in the High North,” January 29, 2009, www.nato.int/eps/en/natohq/opinions_50077.htm (Accessed on August 10, 2020).

⁴⁸ NATO HQ, “Joint press point: with NATO secretary General Jaap de Hoop Scheffer and the Prime Minister of Iceland Geir H. Haarde,” March 13, 2008, www.nato.int/docu/speech/2008/s080226a.html (Accessed on September 21, 2020).

⁴⁹ NATO HQ, “NATO Strategic Concept 2010,” November 19, 2010, www.nato.int/nato_static_fl2014/assets/pdf_publications/20120214_strategic-concept-2010-eng.pdf (Accessed on August 13, 2020).

⁵⁰ 鶴岡路人「国際安全保障環境の変化と 2010 年戦略概念」広瀬佳一、吉崎知典編著『冷戦後の NATO—ハイブリッド同盟への挑戦—』ミネルヴァ書房、2012 年、181 頁。

⁵¹ Paal Hilde and Helene Widerberg, “Norway and NATO: The art of Balancing,” *German and Norwegian Perspectives on Euro-Atlantic Security*, Frankfurt am main: Peter Lang, 2014, pp.199-218.

⁵² Siemon T. Wezeman, “Military capabilities in the Arctic,” *SIPRI Background paper*, March 2012, p.7.

⁵³ Page Wilson, “Between A Rock and a Cold Place? NATO and the Arctic,” January 15, 2014, www.atlanticcouncil.org/blogs/natosource/between-a-rock-and-a-cold-place-nato-and-the-arctic/ (Accessed on December 20, 2020).

イ ロシアの評価：ノルウェーによって拡大される NATO の意図

ロシア国際経済組織部門長のホロドコフ (Vyacheslav Kholodkov) は、スヘップェル発言は NATO が北極における戦略的利益を公然と宣言し、ロシアを脅威と位置づけた上で、北極に軍事的対立を持ち込む動きであると指摘した⁵⁴。またロシア国際問題評議会 (Russian International Affairs Council: RIAC⁵⁵) のシャパロフ (Alexander Shaparov) も、2010 年戦略概念が明記する「同盟として直面するエネルギーと輸送セキュリティ上の課題⁵⁶」は、NATO の北極関与を示唆するものと分析している⁵⁷。さらに NATO が 2010 年戦略概念で新たに掲げた協調的安全保障とは、同盟のドアを開放し続けることを意味し、非敵対的な安全保障を実現するという従来の概念とは似て非なるものといえる⁵⁸。ロシアからすればスヘップェル発言への評価も相俟って、NATO 拡大が北極にも指向されるという、脅威認識へと直結する。

さらに、ロシアは早期から CR に深い懸念を表明している。ラブロフ外相は資源競争を紛争へ転化しかねない演習がノルウェー海域で行われていると発言する⁵⁹とともに、ロシアを明らかに仮想敵としていると NATO を非難した⁶⁰。これに対し NATO は、同演習は司令部所掌ではないとの声明を発表している⁶¹。確かに軍事演習には NATO 司令部が主催する演習と、加盟国主催に NATO が加わる演習が存在する⁶²ものの、北極への関与示唆も相俟って、ロシアは他ならぬ NATO 主体演習と判断していたのである。

ロシアはノルウェーによって拡大される NATO の意図を脅威と認識しており、これが対立へのエスカレーションをもたらしたと考えられる。

⁵⁴ В.М. Холодков, “НАТО и Арктика,” January 7, 2012, riss.ru/article/10837 (Accessed on September 22, 2020).

⁵⁵ 2011 年大統領令で設立されたシンクタンクであり、幹部の多くはロシア政府関係者である。russiancouncil.ru/about/ (Accessed on August 10, 2020).

⁵⁶ NATO HQ, “NATO Strategic Concept 2010,” 第 13 項。

⁵⁷ Александр Шапаров, “НАТО и новая повестка дня в Арктике,” September 24, 2013, russiancouncil.ru/analytiks-and-comments/analytiks/nato-i-novaya-povestka-dnya-v-arktike?sphrase_id=89934942 (Accessed on July 10, 2020).

⁵⁸ 小林正英「パートナーシップ」『冷戦後の NATO』ミネルヴァ書房、2012 年 213 頁。

⁵⁹ Михаил Ё-Зыгарь, “Северный полюс превращается в горячую точку,” March 27, 2009, www.kommersant.ru/doc/1144847 (Accessed on June 30, 2020).

⁶⁰ 非民主主義的な大国が民主的な小国内の地下資源に対する権利を宣言するが、NATO 介入により勝利するというシナリオであった。岡田「ロシアの北極政策—日本への含意—」、39 頁を参照。

⁶¹ Зыгарь, “Северный полюс превращается в горячую точку.”

⁶² Supreme Headquarters Allied Powers Europe, “Exercises & Training,” shape.nato.int/exercises (Accessed on July 10, 2020).

(3) 対立～対峙へのエスカレーション要因

ア ノルウェーが支える NATO の機能

2014 年 11 月、ノルウェーは新たな北極政策を策定し、対ロシアを含む北極での幅広い国際協力の必要性を述べる傍ら、ノルウェー北部における軍事的プレゼンスの増強を通じて、NATO との同盟強化を目指している⁶³。他方、ソーライデ (Ine Marie Eriksen Soride) 国防相は 2014 年のウクライナ危機を踏まえ、「NATO は北極加盟国を守るために、より注意を払う必要がある」と発言し、さらなる安心供与を求めつつ NATO への不満を表明した⁶⁴。こうしたノルウェーをはじめとする加盟国の不満に対し、NATO は 2014 年 9 月、「即応行動計画 (Readiness Action Plan: RAP)」を発表し、集団防衛機能の強化を図った。RAP は危機や脅威に迅速に対処する適応措置と、防衛態勢の強化により加盟国の安全を確保する保証措置で構成されており⁶⁵、まさしく対ロシアを念頭に置いたものとなっている。

そして NATO は 2016 年 7 月、北極におけるロシアの戦略的影響力に対応するという方針を示し⁶⁶、北極への RAP 適用に踏み切った。具体的には適応措置としノルウェーが主催する CR を通じて脅威対処能力を加盟国に顕示し⁶⁷、保証措置としては 2018 年、NATO 司令部主催による、冷戦後最大規模の演習“Trident Juncture: TJ”を実施した⁶⁸。軍事演習は同盟結束と相互運用性の高さを示し、加盟国へ脅威に対する抑止力を提供しうる手段といえる⁶⁹。なお TJ2018 はノルウェーが NATO に司令部主催の演習を提

⁶³ Norwegian Ministry of Foreign Affairs, “Norway’s arctic policy,” November 2014, www.regjeringen.no/globalassets/Departementene/ud//vedlegg/nord/nordkloden_en.pdf (Accessed on June 30, 2020).

⁶⁴ Gwladys Fouche, “Wary of Russia, Norway urges NATO vigilance in Arctic,” May 20, 2014, mobile.reuters.com/article/amp/idUSBREA4J0HE20140520 (Accessed on August 25, 2020).

⁶⁵ NATO HQ, “NATO’s Readiness Action Plan,” July 2016, www.nato.int/nato_static_fl2014/assets/pdf/pdf_2016_07/20160627_1607-factsheet-rap-en.pdf (Accessed on July 10, 2020).

⁶⁶ NATO HQ, “Warsaw Summit Communique,” July 9, 2016, www.nato.int/cps/en/natohq/official_texts_133169.htm (Accessed on June 30, 2020).

⁶⁷ CR2016 はまさに NRF 強化が実践された場であり、演習終了に際して NATO は、「集団防衛能力の強化に資するものであった」と報道した。NATO HQ, “Exercise cold response 2016 wrap up in Norway,” shape.nato.int/2016/exercise-cold-response-2016-wraps-up-in-norway (Accessed on June 30, 2020).

⁶⁸ Vasco Cotovio and Frederik Pleitgen, “NATO back on the hunt for Russian submarines in the Arctic,” *CNN World*, November 1, 2018.

⁶⁹ 広瀬佳一「国際環境の変化と NATO の戦略・防衛態勢—「適応」と「保証」をめぐる課題—」『戦略研究』第 22 号、2018 年、9 頁。

言し、ホスト国を買って出たことから実現に至っている⁷⁰。ここから、北極に対する NATO の RAP はノルウェーによって支えられているといっても過言ではない。

さらにノルウェーは 2014 年 3 月、約 130 億円を投じて NATO 受入態勢向上のため国内に新たなふ頭を建設し⁷¹、北極における NATO の軍事力発揮基盤を強化した。これは、ノルウェーが冷戦期から NATO 軍の基地設置を拒否することでロシア (ソ連) に配慮し、地域の軍事的危機を下げることで安全保障を追求してきた⁷²という歴史的経緯を鑑みると、特筆すべき動向といえる。さらに 2017 年 4 月には北極戦略を改訂し、ロシアの北極における軍事活動の増加を指摘しつつ、この脅威に対する NATO の協力は必要不可欠であると明記した⁷³。他方で、ノルウェーは国防の強化と地域共通の問題解決を主な目的として、北欧防衛協力 (Nordic Defence Cooperation: NORDEFECO⁷⁴) を主導的に組織した。そして NORDEFECO を通じて、NATO 加盟国とスウェーデン、フィンランドといった非加盟国との結束も図っている⁷⁵。

イ ロシアの評価：ノルウェーによって増幅される NATO の能力

NATO の動向は、ロシアの戦略文書に如実に反映されている。例えば RAP は 2014 年軍事ドクトリンにおける「軍事的ポテンシャルの強化⁷⁶」、2015 年安保戦略における「NATO 加盟国軍の軍事活動の活発化⁷⁷」または 2016 年対外政策概念における「北極へ軍事対立を持ち込む行為⁷⁸」に、それぞれ該当すると考えられる。またプーチン大統領が「ロシア国境付近での NATO

⁷⁰ Norwegian Armed Forces, “Facts and information-Exercise Trident Juncture 2018,” October 29, 2018, forsvarent.no/en/ForsvaretDocuments/Facts-English.pdf (Accessed on October 30, 2020).

⁷¹ Julian E. Banes 「北極海下の冷戦」『The Wall Street Journal 日本版』2014 年 3 月 26 日。

⁷² 大島美穂「ノルウェー内外の変容の中での独自路線の模索－津田由美子、吉武信彦共編著『世界政治叢書・北欧・南欧・ベネルクス－』ミネルヴァ書房、2011 年、64-65 頁。

⁷³ Norwegian Ministry of Foreign Affairs, “Norway’s Arctic Strategy,” April 21, 2017, www.regjeringen.no/en/dokumenter/arctic-strategy/id2550081 (Accessed on October 15, 2020).

⁷⁴ ノルウェー、デンマーク、フィンランド、アイスランド及びスウェーデンの 5 か国で構成される、www.nordefco.org/the-basics-about-nordefco (Accessed on November 5, 2020).

⁷⁵ ファマン・ミヒャエル「欧州の北極圏戦略－アイスランドとノルウェーの EU 加盟可能性も視野に入れて－」『上智ヨーロッパ研究』第 2 号、2010 年、120 頁。

⁷⁶ Путин, “Военная доктрина 2014,” 2 章 12 節 a 項を参照。

⁷⁷ Путин, “Стратегия национальной безопасности 2015.” 2 章 15 節参照。

⁷⁸ “Концепция внешней политики,” 4 章 76 節参照。

軍事演習や軍事インフラの接近は明らかな脅威である⁷⁹と発言するなど、ロシアは NATO への強い危機感を露わにしている。

また 2016 年 8 月、オスロのロシア大使館が「ノルウェーは北極に NATO を引き込み、北欧を不安定化している⁸⁰」と警告するなど、ロシアの目にはノルウェーが北極における NATO の脅威を増幅しているように映っている。さらにロシアにとって、NORDEFCO は「ミニ NATO」に他ならず⁸¹、NATO と NORDEFCO がつながる可能性を警戒し、ノルウェーによる NATO 加盟国と非加盟国を結びつける行動を、北極における NATO の能力強化と拡大を企図するものと捉えている⁸²。NATO 拡大はロシアにとって戦略的縦深の喪失に他ならず⁸³、戦略正面として重視するようになった北極への拡大に対し、ロシアはさらに危機感を募らせることになる。

ロシアはノルウェーによって増幅される NATO の能力に強い危機感を示しており、これが対峙へのエスカレーションを招いたといえよう。

3 ノルウェーを介した、北極におけるロシアと NATO 間関係

これまでの分析を通じて、ロシアの対 NATO 北極戦略におけるエスカレーションは、ノルウェーを介した、NATO の意図と能力によってもたらされているという因果関係を明らかにした。そこで本節ではロシアと NATO にノルウェーが介在することにより、どのような作用がもたらされているのかという観点から、北極における 3 者間関係について分析する。

(1) ロシアと NATO が志向する、協調と対立の均衡

ロシアの北極政策を専門とするブキャナン (Erizabeth Buchanan) は、ロシアは北極における国益確保に向けた活動を推進する傍ら地域協力を重

⁷⁹ 『ロシア月報』第 902 号、61 頁。

⁸⁰ Jackie Northam, “In A Remote Arctic Outpost, Norway Keeps Watch On Russia’s Military Buildup,” November 3, 2019, www.npr.org/2019/11/03/775155057/in-a-remote-arctic-outpost-norway-keeps-watch-on-russias-military-buildup (Accessed on August 17, 2020).

⁸¹ Alexander Shaparov, “NATO and a New Agenda for the Arctic,” September 24, 2013, rusiancouncil.ru/en/amp/analytics-and-comments/analytics/nato-and-a-new-agenda-for-the-arctic/ (Accessed on November 5, 2020).

⁸² Рик Розофф, “Военный альянс НАТО в Арктике,” January 1, 2011, inosmi.ru/amp/world/20110124/165922113.html (Accessed on October 15, 2020).

⁸³ 小泉悠「ロシアの軍事戦略における中・東欧—NATO 東方拡大とウクライナ危機のインパクト—」『国際安全保障』第 48 巻第 3 号、2020 年 12 月、54 頁。

視しており、紛争を望んではないと指摘する⁸⁴。確かにロシアは、北極政策の基本で北極諸国との良好な関係を戦略的優先事項に挙げたほか⁸⁵、2015 年海洋ドクトリンでは、北極諸国との地域の安定的発展に資する協力を方針として掲げた⁸⁶。また NATO に対しても、2015 年安保戦略で、北極における対等性を前提とした関係発展に前向きな姿勢を示している⁸⁷。

ロシアは北極の問題に関しては、国連海洋法条約に基づく解決を図るほか、国家間で各種協力を推進するという、AC のイルリサット宣言⁸⁸を重視している。ここには、北極沿岸国で運営される狭いサークルを維持し、NATO が何らかの役割を担う事態を避けたいという、ロシアの企図が含まれている⁸⁹。いわばロシアは、北極における主体的な国際秩序の形成を通じて、沿岸国とその背景に控える NATO への牽制を目指しているのである。ケナン研究所のクロッソン (Stacy Closson) は、これをロシアによる、北極での協調と対立の均衡と称した⁹⁰。

なおロシアは戦略文書上、引き続き NATO を軍事的危険から軍事的脅威へ格上げしていない。これはロシアが NATO へ不満を表明することとどめ、軍事的脅威として対応することを回避しているためとされる⁹¹。いわば、ロシアは協調と対立の均衡を図り、北極における NATO との緊張を低レベルに抑えたいのである。

一方、NATO もまたロシアとの協調を追求している。NATO-ロシア理事会はその代表的な機関であり⁹²、さらに 2010 年からはロシアと北極にお

⁸⁴ Elizabeth Buchanan, “Russia and China in the Arctic: assumptions and realities,” September 25, 2020, www.aspistrategist.org.au/russia-and-china-in-the-arctic-assumptions-and-realities (Accessed on October 28, 2020).

⁸⁵ “Основы государственной политики Российской Федерации в Арктике,” 1 章 4 節 6 項及び 3 章 6 節 e 項参照。

⁸⁶ Путин, “Морская доктрина,” 3 章 60 節 d 項参照。

⁸⁷ Путин, “Стратегия национальной безопасности 2015,” 4 章 107 節参照。

⁸⁸ Arctic ocean conference, “2008 Ilulissat Declaration,” May 28, 2008, cil.nus.edu.sg/wp-content/uploads/2017/07/2008-ilulissat-Declaration.pdf (Accessed on September 10, 2020).

⁸⁹ ドミトリー・トレーニン『ロシア新戦略—ユーラシアの大変動を読み解く—』河東哲夫ほか訳、作品社、2012 年、240-241 頁。

⁹⁰ Stacy Closson, “Russian Foreign Policy in the Arctic: Balancing Cooperation and Competition,” *Kennan Cable*, No. 24, January 2017.

⁹¹ Carolina V. Pallin and Fredrik Westerlund, “Russia’s Military Doctrine - Expected News,” *RUFBS Briefing*, No. 3, Swedish Defence Research Agency, February 2010, www.foi.se/upload/RUFBS/RUFBS_Briefing_feb_10.pdf (Accessed on October 25, 2020).

⁹² パートナーシップ醸成に資するための協議、協力及び合意形成のメカニズムである。NATO HQ, “NATO-Russia Council,” March 23, 2020, www.nato.int/cps/en/natohq/topics_50091.htm (Accessed on June 2, 2020).

ける協力と信頼を構築するためのワークショップを開催している⁹³。またストルテンベルグ NATO 事務総長は TJ2018 に際し、北極加盟国の保護を宣言しつつも、ロシアと対立する意思はないと明言した⁹⁴。さらに加盟国から北極への具体的戦略を望む声は小さくないものの、NATO は、ロシアに対して防衛 (Defense)、抑止 (Deterrence) 及び対話 (Dialogue) で構成される 3D の方針を打ち出すに留まっている⁹⁵。ここから NATO もまた協調と対立の均衡から、北極におけるロシアとの緊張抑制を目指しているといえよう。

(2) ノルウェーがもたらすセキュリティージレンマ

ロシアと NATO は、北極において協調と対立の均衡を目指している。しかし互いが行動の真意を確信できず、さらに緊張は高まりつつあり⁹⁶、両者間には食い違い、いわば撞着が生じているように見受けられる。ここで、我々は両者間の狭間にあるノルウェーの存在に着目する必要がある。

ノルウェーは、戦後から「大国の渦から身を守る」という現実主義と「大国の間を取り持ちたい」という理念から、大国間の架け橋にならんとする、“Bridge-Building”というイニシアティブを有している⁹⁷。そしてこれが、ロシアと NATO への双方向的な安全保障上の姿勢に結びついている。しかし今やノルウェーは、ロシアの脅威復活により北極が冷戦期へと回帰したとの認識にあり、これを新常態 (New Normal) と評している⁹⁸。そこでノルウェーは、北極における NATO の戦略的存在感を高めることで安全

⁹³ Scott Polar, “NATO and Russia to join in dialogue at icebreaker,” October 13, 2010, www.cam.ac.uk/research/news/nato-and-russia-to-join-in-dialogue-at-icebreaker (Accessed on October 26, 2020).

⁹⁴ Levon Sevunts, “NATO’s Arctic dilemma—Two visions of Arctic collide as NATO and Russia flex muscles—,” February 18, 2021, www.rcinet.ca/eye-on-the-arctic-special-reports/Norway-nato-trident-juncture-exercise-kirkenes-russia-military-defence-tensions (Accessed on March 10, 2020).

⁹⁵ Mathieu Boulegue, “NATO Needs a Strategy for Countering Russia in the Arctic and Black Sea,” July 2, 2018, www.chathamhouse.org/expert/Comment/nato-needs-strategy-countering-russia-arctic-and-black-sea?amp (Accessed on December 20, 2020).

⁹⁶ Christopher Woody, “Russian and NATO militaries are getting more active in the Arctic, but neither is sure about what the other is doing,” July 21, 2020, www.businessinsider.com/russia-nato-increasing-military-activity-in-the-arctic-2020-7?amp (Accessed on December 20, 2020).

⁹⁷ 竹澤由記子「戦後ノルウェーのセキュリティー・アイデンティティに関する一考察：NATO 加盟プロセス—1945 年から 1949 年までを中心に」『国際公共政策研究』第 19 巻第 2 号、2015 年 3 月、66、77 頁。

⁹⁸ Fridtjof nansen institute, “Tensions with Russia ‘the new normal’,” October 26, 2016, www.fnii.no/news/tensions-with-russia-the-new-normal-article-1131-330.html (Accessed on December 7, 2020).

保障を追求しており⁹⁹、新常态における”Bridge-Building”は、NATO に大きく比重が傾けられている。

またノルウェーは NORDEFCO を通じて NATO との幅広い協力の価値を補完、追加することを目指し、北欧の非 NATO 加盟国との連携を強めている¹⁰⁰。特にノルウェーが NORDEFCO 内で担当した演習は、同機構における最も成功した活動と位置付けられ、他 NORDEFCO 加盟国からは有事における NATO との柔軟な連携に資するものであると評価された¹⁰¹。さらにノルウェーは 2018 年、NORDEFCO 議長国として北欧地域の全面防衛に関する相互運用性や抑止力を強化するという、より野心的な「北欧防衛協力ビジョン 2025」を取りまとめている¹⁰²。

ロシアと NATO 間にはノルウェーを介することによって、対立と協調の均衡に関する撞着が生じているといえよう。そしてこれがロシアに北欧における勢力均衡 (Nordic Balance) の崩壊を認識させ、NATO による被包囲網意識を強めさせる¹⁰³ことで、ロシアの北極における対 NATO 戦略にエスカレーションをもたらしている。またこれが NATO の目には、ロシアが北極に対して積極的に戦略的影響力を増大しているものとして映っている。いわばノルウェーがもたらす撞着が結果として、ロシアと NATO の間にセキュリティジレンマ¹⁰⁴を生じさせ、互いが望んでいないにも関わらず、両者間の緊張をさらに発展させるという構図を形成しているのである。

⁹⁹ Julie Wilhelmsen and Kristian Gjerde, “Norway and Russia in the Arctic: New Cold War Contamination?” *Arctic Review on Law and Politics*, Vol. 9, September, 2018, p. 387.

¹⁰⁰ Nordic Ministers of Defence, “Nordefco Annual Report 2018,” www.nordefco.org/Files/AnnualReport-NORDEFCO.digital_compressed.pdf (Accessed on November 30, 2020).

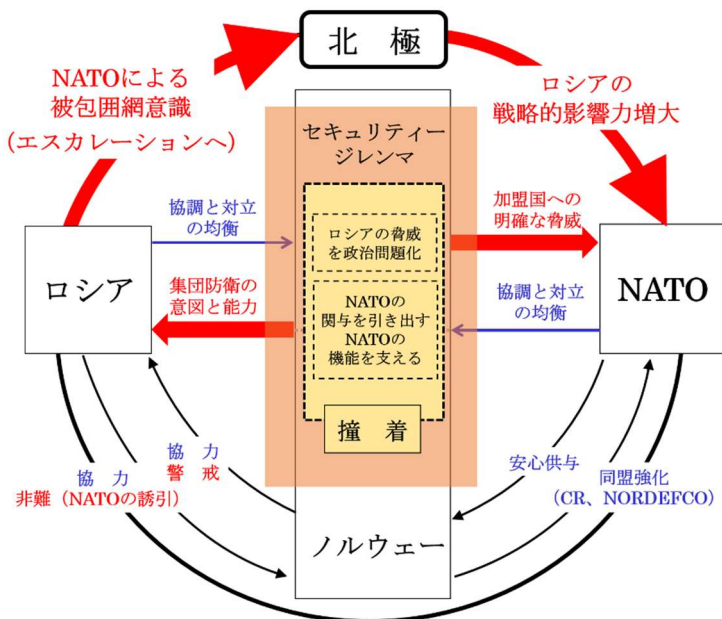
¹⁰¹ 特に TJ2018 がその一例である。なお NORDEFCO における協力活動に関しては、①武器 (COPA/ARMA)、②能力 (CAPA)、③人的資源・教育 (HRE)、④訓練・演習 (TEX) 及び⑤運用 (OPS) の 5 つの分野から構成されており、それぞれに 2 年周期で担当国を割り当てている。Pauli Järvenpää, “NORDEFCO: Love in a Cold Climate?” April 3, 2017, icds.ee/wp-content/uploads/2017/ICDS_Analysis-Paul_jarvenpaa-April_2017.pdf (Accessed on July 20, 2020).

¹⁰² Nordic Ministers of Defence, “Nordefco Annual Report 2018.”

¹⁰³ 小泉悠「北極圏の軍事化をめぐるパラドックス」川名晋史編『共振する国際政治学と地域研究』勁草書房、2019 年、101 頁。

¹⁰⁴ 安全を求める相手方の意図をめぐる不確実性とそこから来る不安が悪循環を生じさせるものと定義する。土山實男『安全保障の国際政治学—焦りと傲り—』有斐閣、2014 年、108-111 頁参照。

図 2 ノルウェーを介した、北極におけるロシアと NATO 間関係



(出所) 筆者作成

おわりに

2020 年 3 月、ロシアは「2035 年までの北極圏におけるロシア連邦の国家政策の基本」を策定し、他国の軍事的プレゼンスによる紛争の可能性に言及する一方、北極諸国との高レベルな協力を目指すとした¹⁰⁵。一方で、プーチン大統領は北極で強化される NATO の軍事的プレゼンスを批判するとともに、これに対する確固たる対応を宣言しており¹⁰⁶、2020 年段階でロシアの対 NATO 北極戦略は引き続き対峙の段階にあったといえる。他方、ストルテンベルグ事務総長は北極におけるさらなる緊張の増大を回避する

¹⁰⁵ Владимир В.Путин, “Об Основах государственной политики Российской Федерации в Арктике на период до 2035 года,” March 5, 2020, www.garant.ru/products/ipo/prime/doc/73606526 (Accessed on January 4, 2020), 2 章 8 節 r 項と 3 章 16 節参照。

¹⁰⁶ “Российские военные заявили о росте военной активности НАТО в Арктике,” *Коммерсант*, November 11, 2020, www.kommersant.ru/doc/4566982 (Accessed on January 4, 2020).

ことと NATO が存在することの間にバランスを見つけていくと発言した¹⁰⁷。ロシアと NATO は北極で紛争の可能性が高まりつつあるとの認識の下、両者共に協調と対立の均衡を目指していたといえよう。しかし 2022 年 2 月から強行されているロシアによるウクライナ侵攻によって、ロシアと NATO の関係は危機的な段階に移行したと判断できる。そして日々深刻化するウクライナ情勢が北極での衝突へと波及する可能性が高いと分析する見方もあり¹⁰⁸、今後の北極におけるロシアと NATO 間関係の見通しは困難な状態に陥っている。

ノルウェーは 2018 年以降もロシアに対する危機感を強め、NATO との同盟を強化する方針を示す¹⁰⁹ほか、NORDEFCO を通じた北欧地域の平和と安定の維持に努めている¹¹⁰。なおウクライナ侵攻を受けて、NATO 加盟に向けた動きを加速化させているフィンランドとスウェーデンにとって、NORDEFCO はその大きな足掛かりとなると期待されている¹¹¹。また 2022 年 3 月から 4 月にかけて、ノルウェーは NATO 加盟国のみならず、非加盟国のフィンランドとスウェーデンも参加した、1980 年代以来史上最大規模の CR2022 を主導した¹¹²。さらにロシアのウクライナ侵攻に対しては大幅な外交政策の転換を図り、ウクライナに対する武器供与支援を決定するほ

¹⁰⁷ Paul Taylor, “Under the Ice in the Arctic, You Have Some of the Most Dangerous Weapons in the World,” September 9, 2020, www.highnorthnews.com/en/stoltenberg-under-ice-arctic-you-have-some-most-dangerous-weapons-world (Accessed on December 20, 2020).

¹⁰⁸ Peter B. Daninov, “Ukraine Tension between NATO and Russia may Affect the Arctic, Researchers Say,” January 11, 2022, www.highnorthnews.com/en/ukraine-tension-between-natoand-russia-may-affect-arctic-researchers-say (Accessed on April 26, 2022).

¹⁰⁹ Atle Staalesen, “Norway strengthens its Arctic military in new defense plan as security concerns grow in the region,” April 20, 2020, www.rcient.ca/eye-on-the-arctic/2020/04/20/Norway-strengthens-its-arctic-military-in-new-defense-plan-as-security-concerns-grow-in-the-region (Accessed on January 4, 2020).

¹¹⁰ Frank B. Jensen, “New steps towards a stronger Nordic Cooperation on Defense,” November 20, 2019, www.regjeringen.no/en/aktuelt/new-steps-for-a-stronger-nordic-cooperation-on-defense/id2677909/ (Accessed on November 5, 2020).

¹¹¹ Gerard O’Dwyer, “Finland and Sweden may take unhurried route to NATO membership,” March 5, 2022, www.defensenews.com/global/europe/2022/03/04/finland-and-sweden-may-take-unhurried-route-to-nato-membership/ (Accessed on March 11, 2022).

¹¹² 27 か国から 3 万人以上が参加した。ウクライナ侵攻後に NATO 加盟を検討することとなったフィンランドとスウェーデンが参加したという点で、NATO にとっては非常に象徴的な演習といえる。“NATO Arctic exercises get under way in Norway,” March 14, 2022, www.arctictoday.com/nato-arctic-exercises-get-under-way-in-norway/. (Accessed on March 24, 2022).

か¹¹³、ノルウェーはリトアニアの NATO 駐留軍にも部隊を派遣し¹¹⁴、同盟の結束に尽力している。以上のことから、本稿で明らかにした 3 者間の関係構造が受け継がれ、今後はさらにノルウェーがロシアと NATO 間にセキュリティジレンマをもたらし、軍事紛争に向けたロシアのエスカレーションを招く可能性¹¹⁵が考えられる。

本稿において試みた、一般的には客体として扱われるロシアの視点に立つこと及び地域小国と位置づけられるノルウェーを影響因子として見出すというアプローチは、ややもすると固着的になりがちな国際政治学に 1 つのインプリケーションを与える。すなわちロシアもまた NATO から確かな脅威を感じていることに加え、両者が共に衝突を望んでいないものの、ノルウェーという地域小国が緊張を高めているという関係が浮かび上がるのである。こうしたセキュリティジレンマが生じているという構造に立脚し、ウクライナ情勢をにらみながら、今後もノルウェーの動向と北極の安全保障に対する影響力を注視していく必要がある。

2021 年 5 月、ロシアは AC 議長国に就任し、自ら望んだ大国の役割を北極において担うこととなった。AC は安全保障問題を扱わないという制約を有するものの、ロシアと西側諸国間の対話を良好に保っている数少ない国際フォーラムの 1 つであり¹¹⁶、NATO にとっては、AC を通じたロシアとの対話が、北極の緊張緩和を見出す有効な手段であった¹¹⁷。しかしロシアのウクライナ侵攻を受けて、2022 年 3 月、ロシアを除く北極沿岸 7 か国に

¹¹³ ノルウェーは 1950 年代以来、非 NATO 加盟かつ紛争状態またはその危機にある国家への武器供与をしないという外交政策を顕示していた。“Norway to send weapons to Ukraine, in change of policy,” March 1, 2022, www.reuters.com/markets/europe/norway-send-weapons-ukraine-change-policy-2022-02-28/ (Accessed on March 11, 2022).

¹¹⁴ Norwegian government, “Norway strongly condemns Russian attacks,” February 24, 2022, www.regjeringen.no/en/aktuelt/norway-strongly-condemns-russian-attacks/id2902211/ (Accessed on March 11, 2022).

¹¹⁵ 特に CR2022 がロシアとの緊張をさらに高めるという危険を指摘しつつ、ノルウェーは今後もロシアに対する抑止と防衛のバランスをとることが重要と分析している。Astri Edverdsen, “The Norwegian-Russian Border Relationship will not Necessarily be Hard Hit,” March 1, 2022, www.highnorthnews.com/en/high-north-expert-norwegian-russian-border-relationship-will-not-necessarily-be-hard-hit (Accessed on March 11, 2022).

¹¹⁶ Siri G. Tømmerbakke, “Why Finland and Iceland want security politics in the Arctic Council,” October 25, 2019, www.arctictoday.com/why-finland-and-iceland-want-security-politics-in-the-arctic-council/ (Accessed on January 4, 2020).

¹¹⁷ Tyler Cross, “The NATO Alliance’s Role in Arctic Security,” July 19, 2019, www.maritime-executive.com/editorials/the-nato-alliance-s-role-in-arctic-security (Accessed on November 20, 2020).

より AC は事実上休止することが決定された¹¹⁸。これは AC による海洋汚染防止や生態系保護、または沿岸警備協力などの広範多岐にわたる意義ある活動を停止させ、沿岸国の意思疎通を阻害することに他ならない¹¹⁹。またロシアという巨大な沿岸国を除いた状態で、今後も AC がその目的を果たしていくことができるのかは不透明である。

このような情勢下において、ノルウェーは 2024 年からロシアに継ぐ AC 議長国に就任する予定である。ノルウェーが議長国としてどのような形で AC の再開を主導するのか、また AC を通じてロシアと他沿岸国との関係を再構築していくのか否か。さらにこうした活動を通じて、ノルウェーが北極におけるロシアと NATO との対話を取り持つのか否かによって、今後の北極における安全保障が左右されるといっても過言ではない。

¹¹⁸ Thomas Nilsen, “Arctic Council “in pause mode” as seven of eight member states condemn war,” March 03, 2022, thebarentsobserver.com/en/arctic/2022/03/arctic-council-pause-mode-seven-eight-member-states-condemn-war (Accessed on March 11, 2022).

¹¹⁹ Melody Schreiber & Krestia DeGero, “Russia’s invasion of Ukraine will have spillover effects in the Arctic,” February 24, 2022, www.arctictoday.com/russias-invasion-of-ukraine-will-have-spillover-effects-in-the-arctic (Accessed on March 11, 2022).